

E. 学習・研究環境の改善**①TA・RA 制度による修学上の支援****●首都大学東京 理工学研究科数理情報科学専攻****「理工横断型人材育成システムの再構築」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

- ・理工学研究科内の3専攻（数理情報科学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻）の学生からなるGPアシスタント（TA）を毎学期、10数名雇用し、理工横断的TAチームを組み、理工基礎科目（主に数学）の学習相談・支援を行う「理工数学相談室」の運営（平日毎日、1時間半の時間帯を設定して相談対応を実施）を推進した。これは、大学院生にとっても、学部基礎数学の内容を教えることで自らの「数学リフレイン教育」にもなるよう意図したものである。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・理学と工学の大学院生がなるべくペアを組んで基礎数学相談を行うことで、TA相互の理工交流の機会の1つにもなるようチーム編成を考慮した。
- ・TA自らが数学相談活動の充実を目的とする企画発案への支援を積極的に行った。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

- ・TAを体験した学生からは、学生からの質問に対応することの難しさを実感したとの声もある一方で、自分自身の数学基礎力の見直しにもなったり、相談内容にうまく対応できたときの充実感を多く体験することで、満足度はとても高いという結果が出ている。
- ・TA自らが企画しての取り組みに積極的に関わることで、それぞれの分野の視点から活発な意見交換をするなど理工TA間の交流も大いに促進できている。

●徳島大学 医科学教育部医学専攻**「医療系クラスターによる組織的大学院教育」の事例 <医療系>****具体的に何を実施したのか**

教育クラスターに所属する大学院生全員をRAとして雇用した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

教育クラスターに所属する大学院生は全員をRAとして雇用することになるため、その選考にあたっては、研究テーマ、研究計画、これまでの研究業績をもとに、教育クラスター責任者と各教育部長が評価することで、客観性ならびに公平性を保つようにした。

特に効果的であり**改善**に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

経済的支援を行うことで研究に専念できた。また、指導経験となることで指導能力の育成にも寄与した。